



環境報告書

2010年度

eDCグループ(本社)

目次

環境活動開始.....	1
関連諸規定.....	1
推進体制.....	2
ISO14001.....	2
社員教育.....	2
マイはし・マイボトル・マイバッグキャンペーン.....	3
キャップで、ワクチン。愛のエコキャップ運動（本社及び専門学校）.....	3
資源物・ゴミの分別・廃棄.....	4
機密書類のエコ処理.....	4
省エネルギー設備への転換.....	5
グリーン発電・CO2削減（専門学校）.....	6
その他の省エネルギー活動.....	6
eDCグループ.....	7

eDCグループ

株式会社 エスシーシー
宇宙技術開発株式会社
学校法人 電子開発学園九州

2005年5月、eDCグループは、環境保全活動の国際規格である「ISO14001」の認証を取得しました。
以来、環境と共存する企業をめざして努力を続けています。

環境活動開始

環境方針

- 私達は、業務の遂行にあたり、省資源、グリーン調達に取り組み資源を大切に使用するように努めます。
- 省エネルギーに積極的、継続的に取り組むとともに、廃棄物の削減などにより汚染の防止に努めます。
- 環境に係る法律およびeDCグループが同意した協定などの要求事項を順守します。
- 環境保護活動を推進していくために環境マネジメントシステムを構築し、環境目的・目標、環境活動および継続的な見直しによる改善を定め、全メンバーへ周知し、実行します。
- 環境マネジメントシステムを維持するメンバーの環境に対する意識向上を図り、環境保護活動を通じて、地域社会との調和に努めます。



The poster features the EMS logo at the top left and the Quality First eDCグループ logo at the top right. The main title is '環境マネジメントシステム始動!' (Environmental Management System Start!). Below it is the slogan '1人1人の心がけて地球環境を保護しよう' (Let's protect the earth's environment with the heart of every person). The poster includes an illustration of two leaves and a globe, and the text 'ISO14001:2004'. A section titled '~ eDCグループの環境方針 ~' (eDC Group's Environmental Policy) lists the same five points as the text above. At the bottom right, it states the start date '平成21年 7月 1日' (July 1, 2009) and the company name 'eDCグループ本社' (eDC Group Head Office) with the representative director '天本 洋司' (Yoshihiro Amoto). It also lists several member companies: 株式会社SDC, 株式会社環境株式会社, and 株式会社電子部品工業九州.

関連諸規定

2004年12月、環境マネジメントシステムを確立・維持、および継続的に改善することを目的に「環境マニュアル」を制定しました。また、2004年12月に環境保全活動に自主的に取り組み、社会的責任を果たす目的で「環境マネジメントシステム標準文書」を制定しました。

推進体制

- ・2005年1月、eDCグループ本社の環境保全に関する業務を統括管理するために、代表取締役をトップマネジメントとして、EMS管理責任者、EMS推進委員で環境マネジメントシステムを構成しています。
- ・トップマネジメントは、eDCグループの各社（SCC、SED、学園）にEMS管理責任者を任命し、EMS管理責任者が環境保全活動に関する職務を行っています。
- ・EMS管理責任者は、環境保全活動の実施状況を監査するため、内部環境監査員をおき、年1回、内部環境監査を実施しています。
- ・グループ内には、EMS管理責任者、EMS推進委員で組織された「EMS推進委員会」があります。「EMS推進委員会」は月1回、EMS管理責任者により開催され、環境目的や環境目標の設定し、実施結果の評価などを行っています。

ISO14001

2005年5月26日、eDCグループ（SCC、SED、学園）の管理部門としてISO14001:1996の認証を取得しました。

2006年4月27日、eDCグループ（SCC、SED、学園）の本社へ対象部門拡大と新年度規格対応にてISO14001:2004の認証を取得しました。

2011年3月10日、11日に第2回更新審査を受け、3月29日に認証の継続と判定されました。



(登録章番号:JUSE-EG-231、登録事業所:eDCグループ本社)

社員教育

- ・入社時、配属時に社内の集合教育やe-learningで教育を実施し、環境に対する意識づけを行っています。
- ・グループイントラネットにISO14001専用ページを設け、方針、目的、目標等の社内周知を行っています。



マイはし・マイボトル・マイバッグキャンペーン

社員一人ひとりが業務上だけでなく、日常においても環境にやさしい生活を推進するべく「マイはし・マイボトル・マイバッグキャンペーン」を展開しています。



キャンペーン・ポスター：「三つのマイエコロジー」

キャップで、ワクチン。愛のエコキャップ運動（本社及び専門学校）

本社ビル内で回収されたペットボトルのキャップを収集し、それを発展途上国等に対するポリオワクチンとして寄付する「エコキャップ運動」を開始しました。また、本社ビルだけでなく、各専門学校でもエコキャップ活動を展開しています。



<エコキャップ回収実績> キャンペーン・ポスター：「愛のエコキャップ運動」

本社ビル ・ 回収個数：73, 520 個

・ CO2 削減 579 kg
・ ワクチン 92 人分

電子開発学園の専門学校8校：

・ 回収個数：90, 640 個

・ CO2 削減 714 kg
・ ワクチン 114 人分

(H22年4月～H23年3月)

資源物・ゴミの分別・廃棄

各事業所の所在する自治体の条例を参考に、一般事業所の産業廃棄物処理法に基づき、物資源物とゴミを分別し、資源物はリサイクルへ、ゴミは適正な方法で廃棄しています。

回収カート	捨てる物
不燃物	ビン・かん・陶器・プラスチック・ゼニール 金属製品全般・弁当箱
ペットボトル	ペットボトル本体(軽く洗って) ※シールは剥がしてその物ごみカートへ
ペットボトルキャップ	ペットボトルキャップ(軽く洗って) ※シールは剥がしてその物ごみカートへ
新聞・雑誌	新聞・雑誌・パンフレット(雑誌)
ボックスパーペーパー上製物	名刺サイズより大きい紙製品 封筒(紙製のみ) ※コピー用紙などあるものはその物ごみカートへ
ダンボール	折りたんで回収カートに立てかける
その他ごみ	※書院のない紙ごみ・ティッシュペーパー 紙くず・生活ごみ・ガムテープ・ゼニールテープなど
コピー用紙 フリノ用紙	復用済みコピー用紙、プリンタ用紙 ※秘密文書、個人情報が印刷されている用紙は保護くんへ
保護くん	秘密文書・個人情報が印刷されている用紙
生ごみ	茶がら・コーヒーがら・ティッシュバッグ類 食べ残し・果物の皮など
電池	復用済み電池
社内自販機専用	ビン・かん・ペットボトル アベックス紙コップ

キャンペーン・ポスター：「資源物・ごみの分け方・捨て方」

機密書類のエコ処理

本社ビルで発生する機密書類の廃棄には、日本パープル社の「保護(まもる)くんサービス」を利用しています。自社内のシュレッダーによる屑の発生をゼロにするとともに、委託した日本パープル社が、厳重なセキュリティ対策の下、オリジナル大型特殊破砕機で紙の繊維に配慮した破砕により機密抹消処理した後、適切なりサイクル処理を実施しています。



<地球環境保護への貢献>2010年4月～2011年3月

本社ビル：SED、SCC

森林伐採抑制量 : 73 本

CO2 排出抑制量 : 2, 101 kg

別館 : SCC

森林伐採抑制量 : 129 本

CO2 排出抑制量 : 3, 707 kg

省エネルギー設備への転換

(1) 本社・別館 (H22年4月～H23年3月)

2008年度から、照明をインバーター方式の安定器にすべて変更し、空調設備をセントラル方式から個別方式へ変更し省電力を推進しています。

①本社：2008年工事实施

1,241千kwh(2008年度)→1,109千kwh(2010年度)

132千kwh削減

②別館：2008年工事实施

1,313千kwh(2008年度)→964千kwh(2010年度)

349千kwh削減

(2) 専門学校の空調設備変更

電子開発学園の専門学校では2003年から個別空調化を推進しています。

①KCS北九州情報専門学校：2003年工事实施

426千kwh(2002年度)→412千kwh(2010年度)

14千kwh削減

②KCS鹿児島情報専門学校：2004年工事实施

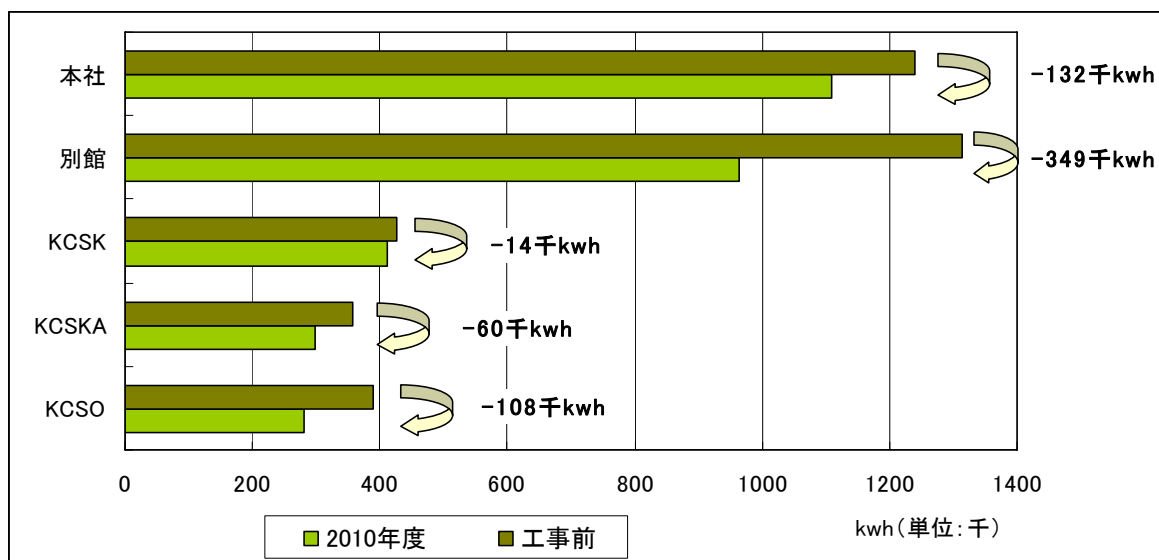
358千kwh(2003年度)→298千kwh(2010年度)

60千kwh削減

③KCS大分情報専門学校：2008年工事实施

390千kwh(2007年度)→282千kwh(2010年度)

108千kwh削減



グリーン発電・CO2削減（専門学校）

専門学校ではハイブリッド車「プリウス」を6台購入し、自然エネルギーによる発電が行われた証明「グリーン電力証書」の発行を受けました。

そのグリーン電力相当量は、77kWhです。

（発行日：2010年8月31日）

各校への配備を順次、検討しています。

＜平均燃費の改善実績（km/l）＞

新潟情報専門学校： 12→21

名古屋情報メディア専門学校：11→19

広島情報専門学校： 14→24

KCS福岡情報専門学校： 14→21、
（2台） 15→23

KCS鹿児島情報専門学校： 14→19



グリーン電力・CO2削減：「グリーン電力証書」

その他の省エネルギー活動

eDCグループでは、TV会議システムを利用した複数拠点の会議を開催しています。各事業所・学校で少人数から、大人数で開催する会議などTV会議設備を開催人数に合わせた部屋に移動して、開催しています。

このTV会議設備での会議システムは、社内やグループ内の会議だけでなく、お客様との会議でもTV会議設備を利用して、移動に伴うエネルギーを削減しています。

TV会議設備は、電子開発学園の各専門学校（10校）、宇宙技術開発株式会社各事業所（3事業所）、株式会社エスシーシーの各支店（4支店）でインターネット通信を利用して実施しています。時間と移動費、作業効率の向上に役立っています。

eDCグループ

eDCグループ（IT関連の大学、専門学校、研究所、企業）は、産学研協同の組織的活動を行うことによって技術力と品質を高め、満足度の高いサービスをお客様に提供いたします。

■ 教育（IT関連の大学、専門学校）

H I U（北海道情報大学）



電子開発学園

- ・北海道情報専門学校
- ・新潟専門学校
- ・名古屋情報メディア専門学校
- ・名古屋医療情報専門学校
- ・大阪情報専門学校
- ・広島情報専門学校
- ・KCS北九州情報専門学校
- ・KCS福岡情報専門学校
- ・KCS大分情報専門学校
- ・KCS鹿児島情報専門学校



■ 企業

株式会社 エスシーシー

- ・本社、本社別館
- ・北海道支店
- ・名古屋支店
- ・関西支店
- ・九州支店



宇宙技術開発株式会社

- ・本社
- ・北海道（北海道情報技術研究所内）
- ・筑波事業所
- ・筑波（JAXA筑波宇宙センタ内）
- ・鳩山出張所
- ・鳩山（JAXA地球観測センタ内）
- ・勝浦（JAXA勝浦宇宙通信所内）
- ・内之浦（JAXA内之浦宇宙通信所内）
- ・種子島事業所
- ・種子島（JAXA種子島宇宙センタ内）
- ・増田（JAXA増田宇宙通信所内）
- ・沖縄（JAXA沖縄宇宙通信所内）
- ・小笠原（JAXA小笠原追跡所内）

■ 研究

北海道情報技術研究所





2011年4月
発行：EMS推進委員会